

使用方法・リールの準備

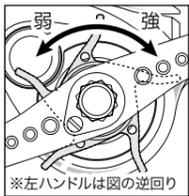
※説明書中のイラストは実際の製品と異なる場合がございます。

■メカニカルブレーキノブ

DC ブレーキを搭載したリールでは、メカニカルブレーキの設定方法が従来のブレーキシステムとは異なります。通常はスプールの軸方向にガタつかない程度にゆるめてお使いください。メカニカルブレーキを必要以上に締め付けると、DC システムが本来の性能を発揮できません。ただし、想定以上の強風条件などではメカニカルブレーキを締め付ける必要があります。

■スタードラッグ

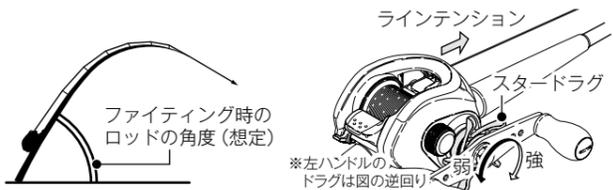
ハンドル側から見て、時計回りに（レフトハンドルは反時計回りに）回すことでドラッグが締まります。



■ドラッグの調整方法

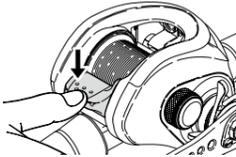
ドラッグとは、その強弱を調整することにより、急激な魚の引きに対し、スプールが逆転して糸切れ（ラインブレイク）を防ぐ機構です。又、その逆転時に発生する抵抗値をドラッグ力と言います。

1. 実際に使用される竿にリールをセットし糸をガイドに通してください。
2. クラッチを“ON”の状態にして、想定されるファイティング時のロッドの角度を保って、図のように糸を引き出しながらスタードラッグの締め付けを調節してください。その際、出来るだけ実際の状況に近づける為、対象とする魚の泳ぐスピードを想定して糸を引き出してください。



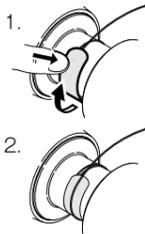
■クラッチ操作方法

親指でクラッチレバーを下に押すとクラッチが切れ、スプールはフリーの状態になります。カチッと音がするまで確実にクラッチレバーを押してクラッチを切ってください。



■スプールへの糸止め方法（糸を巻く時）

1. スプールにラインを結び、その結び目の上に市販のテーパ等をピッタリと確実に貼ります。（指などで強く押してください。）
2. シールが確実に貼られていることを確認してラインを巻き込みます。（最初は少しゆっくりと巻くようにします。）
3. 特に PE ラインは滑り易く、伸びがないのでナイロンラインなどよりも強いテンションをかけてきっちりと巻くことが必要です。

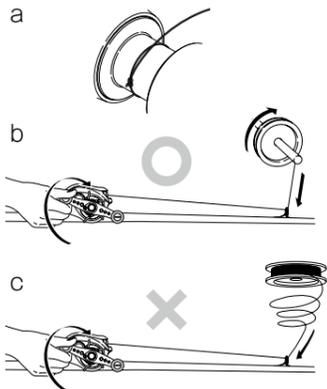


■スプールに糸を巻かれる時の注意点

PE ラインを巻かれる際には、必ず滑り止めになる様な物をスプールに巻いてからご使用ください。そのまま巻かれますと、スプールに巻いた糸が空転し、糸が巻き取れなくなる可能性があります。

■糸の巻き方

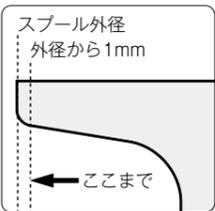
1. ドラッグを強く締め込みます。
2. リールを竿にセットします。
3. 元ガイドから糸を通してスプールに結びます。（図 a）
4. 糸が巻かれているポビンに、割り箸や鉛筆等の軸になるものを通します。
5. そのポビンと軸を誰かに持ってもらい、適度なテンションをかけて、ポビンを回転させながら糸を巻き取るようにして下さい。（図 b）図 c のようにならないようご注意ください。



尚、PE ラインを巻かれる時は、事前に PE ラインを十分に湿らせてください。巻き上げ時に発生する熱（抵抗熱）によって PE ラインが劣化するのを防ぐためです。

●推奨糸巻

糸巻量はスプール外径から 1mm の位置まで巻くことをおすすめします。



■キャスト方法

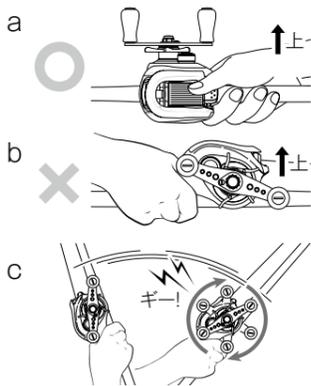
●正しい握り方

ハンドルを上向き（もしくは下向き）にして握ります。（図 a）

下記の握り方でキャストされますと、クラッチ返りが起こりやすくなりますのでお避けください。

ハンドルを横向きにしまうと…（図 b）

キャストの衝撃でハンドルが回転しクラッチが返ってしまいます。（図 c）



■より快適にデジタルコントロールブレーキを使用して頂く為の注意点

●糸巻き量、スプール回転数

ブレーキセッティングはフルライン（スプールの 95% 糸巻き量）の状態を前提に作られています。これより糸巻き量が少ない場合は、スプールの回転数が上がりやすくなるため、ブレーキが強効きすぎる場合があります。糸巻き時には、スプールのテーパ面のエッジ（左記 ●推奨糸巻 図参照）に合わせた糸巻き量でご使用ください。

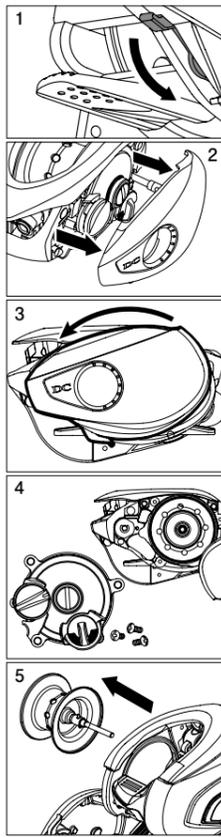
■スプール着脱方法

レバーを矢印の OPEN 方向に切替え、サイドプレートを下側へ回転することで開くことができます。釣りに使用されるときや持ち運びの時は、レバーを OPEN と反対方向に切替え、サイドプレートが回転しない状態で使用してください。※ライトハンドルのイラストで説明しています。

●サイドプレートの開け方

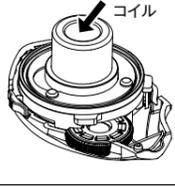
1. レバーを矢印の方向にスライドしてください。
2. 本体 B を引き出してください。
3. 本体 B を矢印の方向に回転してください。
4. デジタルコントロールブレーキユニット（本体 B 受）を外します。
5. スプールを抜き取ります。

※本体 B 受けを外した状態で開口部を下に向けますと、スプールが脱落し、変形する恐れがありますのでご注意ください。



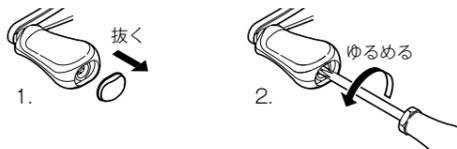
分解時のご注意

- ・電子部品は、全て DC ブレーキユニット（本体 B 受）の内部に取り付けられています。
- ・本体 B 受に装着されているコイル（右図）に力を加えないようご注意ください。変形するとトラブルの原因になります。



■ハンドルノブの取り外し方（パドル型）

1. キャップを取り外します。
2. ノブ内部のネジをゆるめて外します。



お手入れ方法

特に海水・汽水域でリールをご使用された後は、錆や塩分の固着によるトラブルを防止するためにも、以下の要領で釣行後にメンテナンスを行うことをお勧めします。

① 必ず竿から外してください。

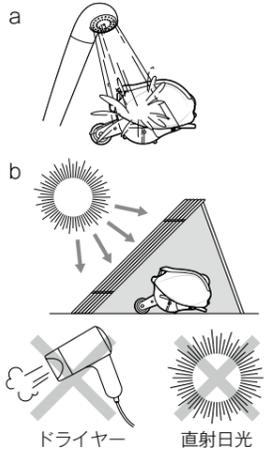
使用後は、必ず竿から取り外して、真水で水洗いしてから保管ください。例え、水洗いされても、竿とセットしたまま放置されますと、リールのフット部とリールシートのフード部に水が溜まり、腐蝕する恐れがあります。

② 水洗いしてください。

ドラッグをしめ込んでから、ハンドルやクラッチ等の作動部を動かしながら、シャワー等の真水で、1～2 分間水洗いしてください。（図 a）

スプールを取り外し、スプールのみを水洗いしていただくことさらに効果があります。スプールに水分や汚れが残ったままリールに組むと、スプールフリーが悪くなりますので、必ずふき取ってから組み込んでください。

※温水はグリスを洗い流す可能性があるのをお避けください。また、同様の理由でリール本体を水没させないでください。



③ 乾燥させてください。

ハンドルやクラッチ等の作動部を動かしてよく水を切った後、ドラッグをゆるめ、直射日光を避けて陰干ししてください。（図 b）※直射日光、ドライヤー等は内部のムレを引き起こします。※隙間に残った塩分や錆による固着を防ぐため、乾燥中は 1 日に 1 度はハンドルやクラッチ等、作動部を動かしてください。

④ 注油してください。

グリス、オイルは弊社純正品（下記参照）をお使いください。そうでない場合の品質は保証いたしかねます。ご注意ください。

SP-003H (メンテスプレーセット)	¥1,900
SP-013A (オイルスプレー)	¥1,050
SP-023A (グリススプレー)	¥1,100
SP-015L (ザルスリールオイルスプレー)	¥1,500

※最寄りの販売店にてお問い合わせください。上記は2017年11月現在の品番及び税抜本体価格です。

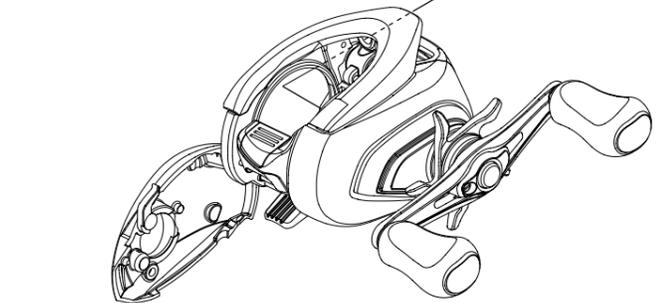
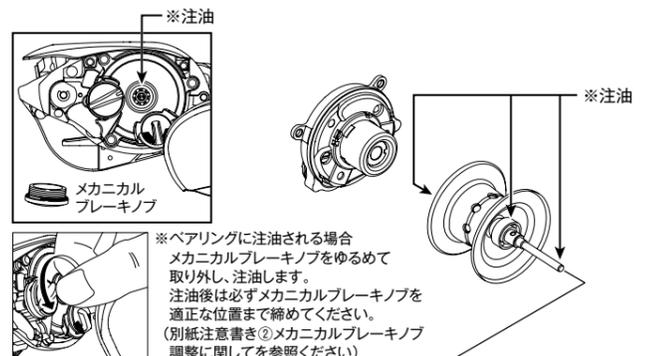
《注油上のご注意》

リールオイル、グリスがハンドルノブに付着したまま長期間放置すると、ハンドルノブが膨潤する場合がありますので、付着した場合はウエスやティッシュペーパー等で必ずふき取ってください。

図の注油箇所にはリールに付属の専用オイル、またはシマノリールオイルスプレーをまがえないように噴霧してください。（シマノ以外のオイルは使用しないでください。）オイルはごく少量で充分です。特にベアリング部分は、あふれるようであればティッシュペーパー等で吸い取っておいてください。ドラッグ部にはオイルは注さないでください。

※イラストは実際の製品と異なる場合がございます。

●注油箇所



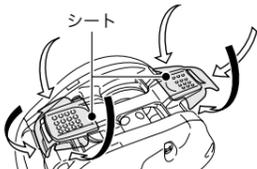
⑤ 保管上のご注意

保管の際は必ず竿から取り外してください。また、なるべく乾燥した冷暗所に保管してください。濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間（自動車のトランク、ダッシュボード等）に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。

※キャスト時のクラッチ返りは、車でいえばクラッチを切らずにギアをつなぐ様なもの。最悪ギアの破損の恐れもあります。絶対にお避けください。
 ※キャスト中にハンドルでクラッチを返さないでください。ギアの破損につながる恐れがあります。ルアーが着水してからクラッチを返してください。
 ※標準装備のハンドルより長いハンドルや、重い（大きい）ハンドルノブを取り付けると、キャスト時のクラッチ返りが起こりやすくなりますのでご注意ください。

■リール脚保護シートの使用方法

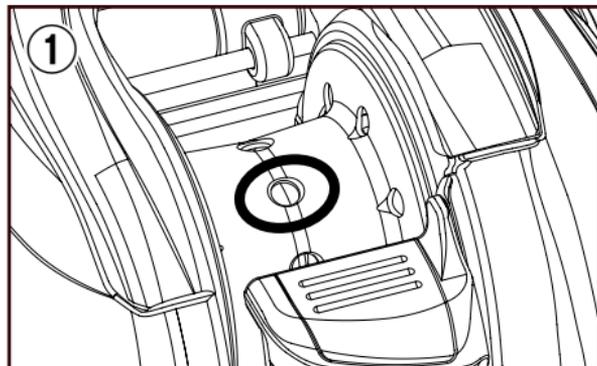
このリールを装着する竿のリールシートが金属製の場合、付属のリール脚保護シートを装着していただくことをおすすめします。リールシートとの干渉による特殊表面処理層の損傷を和らげ、耐蝕性を維持する効果があります。



ANTAIRES
DC
MDXG

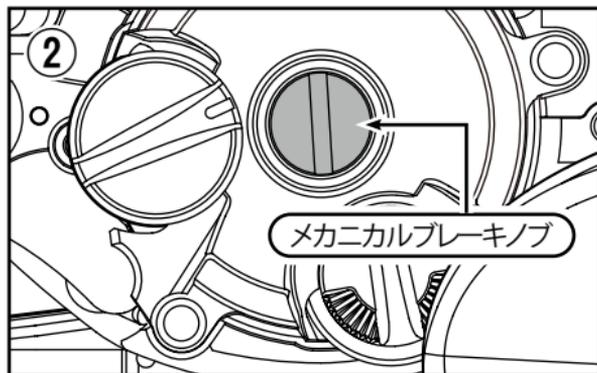
アンタレスDC使用上のご注意

- ①スプールブランキング穴に糸を通さないでください
糸と本体B基板組みとの接触によるスプール回転不具合や、
異音につながります。



②メカニカルブレーキノブ調整に関して

メカニカルブレーキノブはフレームB受に付いています。本体Bをオープンすることで操作できます。スプールの横方向のガタつきは0か僅かに残る程度でスプールがフリーで回転するように調整してください。(ガタが大きい場合は糸巻き形状の悪化、本体Bが締まらない等の機能不具合が生じます。)メカニカルブレーキは締めても問題はありませんが、DCブレーキの機能が十分発揮できなくなります。出荷時はメカニカルブレーキは最適な位置に調整済です。



③本体B基板組みの分解に関して

基板固定ボルト3本は絶対に分解しないでください。分解後の機能保証はいたしかねます。

②のメカニカルブレーキノブを外せば、分解することなく、ベアリングが交換できます。

